

STOP超勤 ニュース①



～「働き方実態アンケート」の結果から考える～

「働き方実態アンケート」 集計結果

回答数 1600人を超えた！

☆やっぱり！ 隠れ残業が相当数、存在することが判明

出勤時、タイムカードなどの打刻をせずに仕事を始めている、または退勤打刻後に仕事を継続したことがあると回答した教職員が約3割います。その理由としては、「上限時間を越えないように」が最も多数を占め、意図的に実際と異なる記録をしているケースが見られました。また「その他」の記述には、屋外での業務、出張、部活動など、校舎の出入りだけでは計測できない場合、また、一度、帰宅して家事を済ませてから仕事を再開する場合、生徒指導や保護者対応など急な業務によって勤務時間として計測されない場合などがありました。

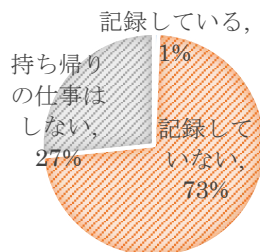
①出勤の打刻前や退勤の打刻後に仕事をしている教職員 **約3割(28%)**

②記録のない休日出勤 **46%**

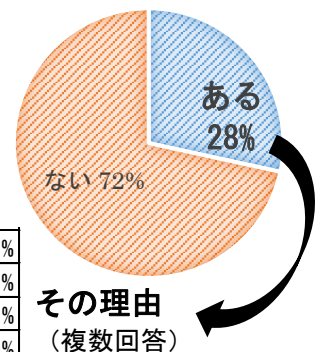
③休憩時間の業務が記録なし **90%**

④仕事の持ち帰りがある **73%**

しかも、持ち帰りの実態は、ほぼ記録なし。

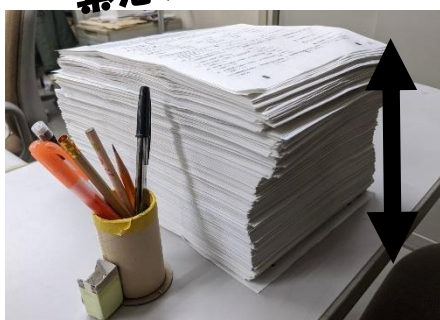


打刻時間が指定されている	14	3%
管理職から圧力を受けて(感じて)	30	6%
上限時刻を超えないように	157	32%
医師との面談を避けるため	48	10%
打刻ミス	115	23%
その他	128	26%
合計	492	



定数改善や業務の大幅削減が示されないまま、「時間外在校等時間」の上限時間を越えないように、あるいは、産業医との面談の対象とならないようになど、有形・無形の圧力が強くなっていることから、あきらめのような形で労働実態と異なる記録につながっていることが推測されます。また、「時間外勤務手当が不支給なのに、削減できない超過勤務を計測することに何の意味があるのか？」という疑問を感じている教員も多数います。

大奮闘！約1600枚
緊急集会で学ぼう！



「STOP超勤 緊急集会2021」

～「働き方実態アンケート」結果から見えるもの～

12月12日(日) 13:00～15:00

全道の職場の実態 (オンライン開催)
を交流しましょう!

内容: アンケート結果について・今後の展開

ゲスト: 北海学園大学 教授 川村 雅則 さん

主催 《全北海道教職員組合・北海道高等学校教職員組合》



アンケート実施主体
北海道高等学校
教職員組合
011-231-0816
全北海道
教職員組合
011-742-0101